

(別紙様式2-2)

## 道徳教育地域支援委託事業実施報告書（令和2年度）

### 1 学校の概要

- (1) 学校名 三豊市立詫間中学校
- (2) 所在地 香川県三豊市詫間町詫間 5796番地 1
- (3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
2学級 67名	4学級 101名	4学級 93名	2学級 6名	267名	27名

### 2 研究主題等

- (1) 研究主題

豊かな心を育て、ともに未来を切り拓く道徳教育  
— 人間としての生き方を考える道徳科の授業の工夫 —

- (2) 研究主題設定の理由

平成28年度に全校生徒対象で実施したアンケート調査の結果、約3割の生徒が「道徳科の授業が好きか」の問いに対して否定的な回答をした。その理由として、約半数の生徒が、「自分の考えを書いたり、意見を言ったりするのが苦手だから」と答えた。また、教師の意識調査でも、道徳科の授業に関する課題の多くが「発問」や「話し合い活動」に関するものであった。

以上の結果を踏まえて、本校は、平成28年度に「道徳プロジェクトチーム」を発足させた。平成29年度から「三つの道徳チーム」を編成し、全教員が学年の枠を超えていずれかのチームに所属し、学校全体で道徳教育を推進する体制を充実させてきた。その結果、道徳の時間の確保や校内指導体制が整い、道徳教育に対する教師の意識も高まってきた。昨年度、四国小・中学校道徳教育研究大会を開催し、成果を発信した。

本年度は、これまでの研究の成果を継続・進化させるために、道徳科の授業の質の向上を図ることとした。具体的には、道徳的価値について自分自身との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりできるように工夫し、生徒が人間としての生き方を考えることができる学習指導の在り方について研究を進めていく。また、更なる授業力の向上を目指し実践を重ねるとともに、評価の在り方を検討し、その妥当性・信頼性を高めていきたいと考えた。

- (3) 研究内容及び方法

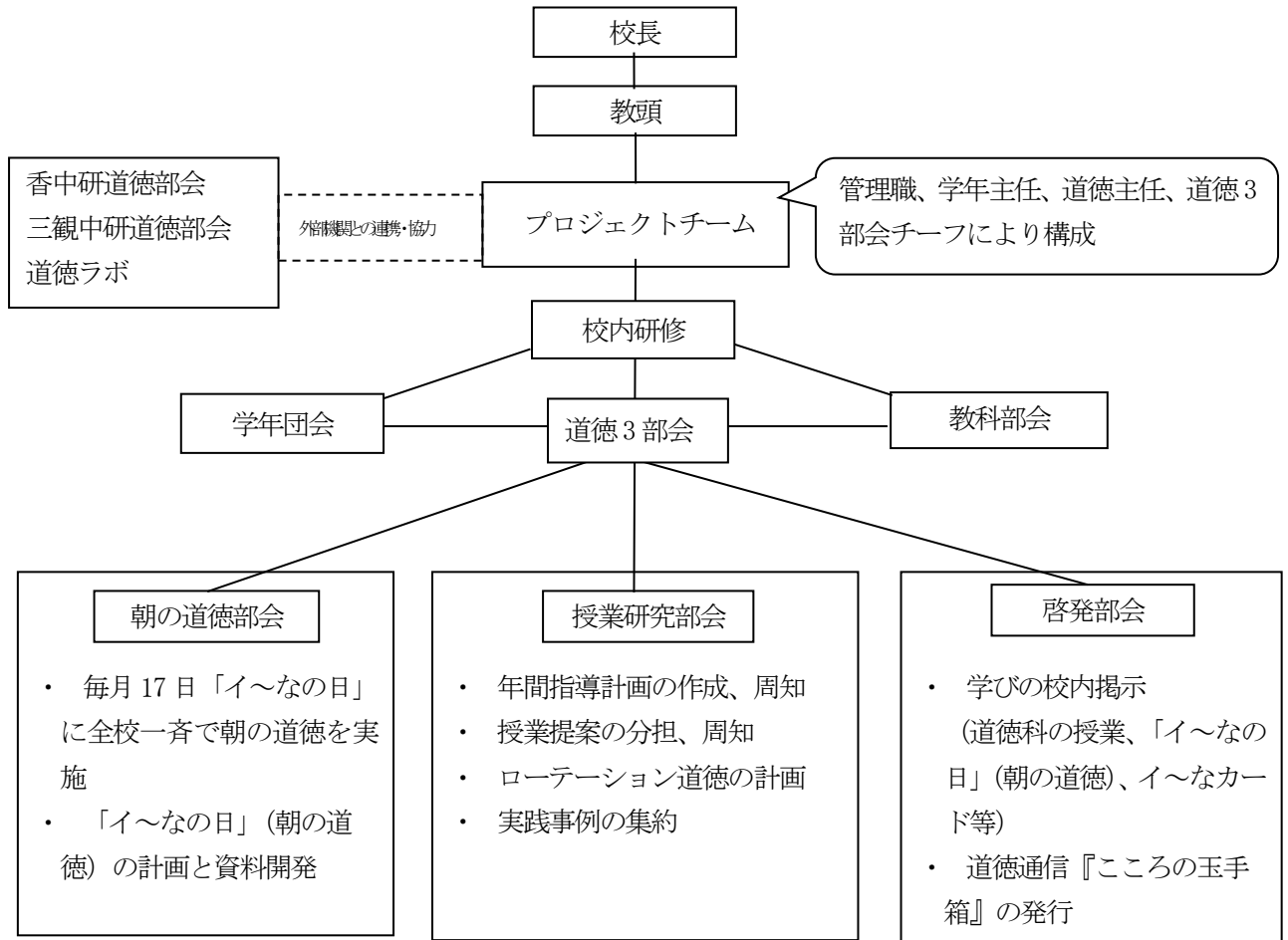
校内の「道徳プロジェクトチーム」及び「三つの道徳チーム」を中心として、学校全体で以下の研究を推進する。

- ① 道徳プロジェクトの会
- ② 全教員で取り組む道徳科の授業研究（校内研修・アンケートの実施）
- ③ 「朝の道徳」（イ〜なの日）の改善・充実と道徳通信や校内掲示による啓発
- ④ 自己を見つめ、問い直す「振り返り」の設定
- ⑤ 評価の工夫

(4) 成果の評価方法（検証方法）

- 道徳ノート、振り返りシート（前・後期）、教師による授業記録等から生徒の変容を見取る。
- 道徳科の授業に関する意識調査や毎学期末の学校評価（職員、生徒、保護者）の結果を検証する。

3 研究組織



4 研究実践

(1) 全教員で取り組む道徳科の授業

全教員で取り組む指導体制作りとして、全学年、同一時間に道徳の時間（金4）を設定して、学年ごとに共通資料を用いたTTでの授業やローテーション授業を実施している。

各学年団とも、学年団全職員が、自分が担当する授業の指導案を作成し、学年団会で事前打ち合わせをして共通理解を図った後、授業実践をしている。また、「教材開発チーム」のメンバーが、中心となって資料の作成、生徒の振り返り等の保存をしている。



【道徳科の授業の様子】



今の筋なら、理沙のように、人のものをマヌしたりしてしまいかもしれない。筋で本物を見て、考えてみたいのが、気持ちが行くと思うし、すごく楽しんでかけると思った。お父さんの言葉はすごく心にひびくし、考えながすまがけにな、まと思いました。まねをされた本人はつらいと思います。自分でも考えてかけようかと思っています。

自分のおじいちゃんが認知症で何度も同じことをさかされたり、言われたりするとすごくイライラしちゃうし、この主人公と同じでした。でもどうせ自分もとしをとったら忘れちゃうしと思うと押し付けがましい気持ちで、ほりになります。おじいちゃんが入院中だし、おじいちゃんに認知症で「大変だ」と思うけど、これからは自分達が笑えたらいいかなと思っています。

### ③ 多面的・多角的に考える

よりよく生きるための基盤となる道徳性を身に付けさせるためには、多様な価値観の存在を前提に授業を構想する必要があります。生徒が、他者や自己と対話しながら、物事を多方面から捉えたり、様々な角度から考えたりする機会を設定し、多様な感じ方や考え方に触れさせる授業を工夫する。



私は、賛成はしてはいたけど、厚村の意見を見て聞いてたけれど、考えが、厚村の意見に近くはなかった。『親に感謝身籠る厚村』の、私は最期まで生を極いの祖を誇りに思ってるのところが、心は暖かかった 絶望するのほらもそれが、しんどいと思ってる。

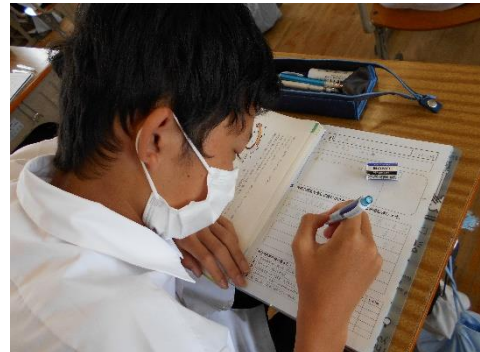
今日の授業を通して、せんが言っていた居場所という言葉が、とても心に染み渡りました。居場所という言葉は、一言で表せない程大事な物です、あるとき自分も居場所を見失ったときもあるけど、みんながふはけさせたり、送り物はもてる、ないけど、たぶんの温い言葉も、自分の居場所を見つけることができたことを思い出しました。『おじいちゃん』は、本当にいい

私は、やはり許されたいと思います。死んだ人は戻ってこない時間ももたないからです。父の母は1年間海外を見てきてお面が、見方が変わり、許したのかもいけません。そして一緒にいる人を殺したいという気持ちで、一緒に過ごすのが、難しいからです。この授業で、許す、許さない、どっちの意見も納得でき、難しい判断でしたが、考え深かったです。どっちの意見も、おじいちゃん。

期待せられたりする時、うまくいかないと不安になり、期待している人に嫌われたくない、関係も壊したくない、とは思っていることがあります。でも、理沙は、不安をなくすため、怒りをあけてくれた。父の言葉で、大切なことに気づけた理沙がすごいなと思いました。閉の中の父の話のような場面にはありますが、正しいことを選ぶ、大事なことが私にもあるの、道徳心を大切にしたいなと思いました。

④ 自己の生き方について考えを深める

生徒は、道徳的価値の理解を深めたり、自己を見つめたりする過程で同時に自己の生き方についての考えを深めていく。その際、道徳的価値の理解を自分とのかかわりで深められるようにしたり、自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを想起できるようにしたりなど、特に自己の生き方についての考えを深めることを意識した授業を構想する。



誰いもが予想していなかった大きな災害で、多くの人は  
 ひとつと同じ生活をしていて、このようなことが  
 起きてしまった。たくさんの命が亡くなりました。入浴前  
 伝えたから、想像も出来なかった。約束など、色んな気持ち  
 や願いがある中で、生き残った人々や、生きた人  
 たちは、ここからの人生を大切に、感謝の気持ちで  
 胸に生きていくことをわすれてはいけません。と思います。

私は、葛西紀明選手のことを、以前から知っていました。  
 2014年の朝のニュースで連日報道されていたからです。でも、私は  
 彼のことあまり詳しくは知りませんでした。「冬のオリンピックの競技の、  
 ほとんどがわからない」といって、お笑い人」というのが私の、彼に対する  
 認識でした。でも、彼は光り輝いていただけではなく、これまで大変な  
 努力と苦勞を味わってきた人だと知りました。人は、努力や苦勞なしに  
 輝くことはできないので、私たちが、精一杯努力して輝くべきではないかと

⑤ 道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

それぞれの場面において、善悪を判断する道徳的判断力、人間としてのよりよい生き方や善を思考する感情である道徳的心情、道徳的心情や道徳的判断力によって価値ある行動をとろうとする道徳的実践意欲と態度を、相互に関連させながら育てるための工夫を行う。

僕が絶対だ。人間は強く立って立つべき。思考回路が  
狂っていく。相手を不幸にして自分が幸になる。自分考え外道を  
絶対だと思ふ。明日は心？物がなく死ぬ。この時代ではおぼり  
自分の心か？強くなると思ふ。強くしたいと思ふ。おぼり  
自分が暴力的には強くなる。後者強く強くなる。おぼり  
おぼり強くなると思ふ。強くなるから強くなる。おぼり  
おぼり強くなる。おぼり強くなる。おぼり強くなる。

りさんのように人は見んまねをしたり、得をしたく  
 なるときもあるけど、けしてそうしたら、物事が上手くいく  
 わけでなく、自分の気持ちが悪くなることを  
 知りました。人はみんな個性があったりするから  
 一番自分の気持ちを考えて自分がベストだと思っ  
 ことを行動にする方がよいと考えました。

おぼり強くなる。おぼり強くなる。おぼり強くなる。  
おぼり強くなる。おぼり強くなる。おぼり強くなる。  
おぼり強くなる。おぼり強くなる。おぼり強くなる。  
おぼり強くなる。おぼり強くなる。おぼり強くなる。  
おぼり強くなる。おぼり強くなる。おぼり強くなる。

僕も、私のおぼり、違ふと思ふ。でも、言えな  
 いことがあるので、こう言う。樹里のよう  
 な人を、おぼり強くなると思ふ。僕も、  
 こう言う。おぼり強くなる。おぼり強くなる。  
 ために、違ふ。おぼり強くなる。おぼり強くなる。  
 なく、おぼり強くなる。おぼり強くなる。おぼり強くなる。  
 います。

(3) 「朝の道徳」(イ～なの日)の充実と道徳通信や校内掲示による啓発

「朝の道徳チーム」のメンバーが、資料の開発や見直しを行い、毎月17日(イ～なの日)、朝の会の時間に放送による読み聞かせを実施する。全校生が資料を見ながら放送を聞き、考えたことを振り返りシートに書くという取組を行っている。

「朝の道徳」の生徒の感想は、「道徳啓発チーム」が、道徳通信「こころの玉手箱」に掲載し、家庭で生徒と保護者が考えを深め合えるようにしている。また、毎月の「朝の道徳」の感想、毎週の授業の写真や感想を、各学年の貫通廊下に掲示するなどして、生徒や保護者への啓発を行っている。



【貫通廊下の掲示「イ～なの日」】



**保護者からの声**—たぐさみのご通信、ありがとうございます—

- 人生にはいろんなことがあります。フジコ・ヘミングさんを通じて、も前に進むことの大切さ(時には立ち止まってもいい)を学び、ありのまま歩むことが夢に向かって努力してほしいと思います。
- 娘は名言を忘れていましたが、一緒に調べました。忙しい毎日です。よかったと思います。恥ずかしながら、私は「フジコ・ヘミング」氏の名曲で、クラシックのすばらしさを思い出しました。いつになっても生ですが、名言に勇気を頂きたいと思っています。
- 苦しいときの試練は、乗り越えることで大きく成長できると言うことでした。歩は努力することで必ず歩けます。
- 幾度の困難にも最高の努力をして乗り越えたからこそ、それまでの苦れられる時が来る。目標を立て、目標に向かって努力を惜しまず力がないと話しました。
- 長い人生の中には、良い事も悪い事も色々あると思います。諦める、めず、努力し、前に進む人になって下さい。
- 誰でも諦めるのは簡単。フジコさんは耳が聞こえなくなろうと、いじとくがんばってきた結果が成功につながる。がんばるだけじゃなく、思いです。前をいしばって色々な困難を乗り越える力があつたからこればできる力がある。
- 自分のしつかりとした強い心を持ち、前向きに頑張る生きていく事は数々の困難を乗り越えて活躍している「フジコ・ヘミング」さんの生き方
- 1枚の紙では伝えきれないほどの内容でした。困難を不届の精神力困難が多すぎました。今、現在ピアニストとして生きて、ピアノを弾き続け
- ひとつの事を思い、やり続ける事の大切さを感じました。くじけそう

【道徳通信「心の玉手箱」と保護者のからの声】

(4) 自己を見つめ、問い直す「振り返り」

① 道徳ノートを作成し、1年間の道徳の学びを積み重ねていくことで、より確実な振り返りの時間を設けるようにしている。

道徳ノートを活用した三つの振り返り

ア 授業の終末における振り返り

授業の終末における振り返りを「三つの書く視点」を提示した上で行う。

日記をみると、目的はあちと重なっています。昔も思いました。師が日記を見つけたのは、あちと重なった。後です。  
かした、本から読み取った。本も、あちと重なった。大切にしたい。  
 と思、自分は、あちと重なった。大切にしたいと思、  
 と、あちと重なった。大切にしたいと思、  
 とい、あちと重なった。大切にしたいと思、  
 とい、あちと重なった。大切にしたいと思、

自分のリフレクション

今までは、桃太郎のことをヒーローで見て  
 退治したずいぶんかと思、ていたけれど、  
 今回の授業で、視点をわかって、  
桃太郎の側から見るとヒーロー  
 じゃ、悪者だった。目的は同じ  
 じゃ、両方をやること。1つは  
 7月まで、悪と戦ったこと、桃太郎と思

多面的・多角的



- ② 道徳の時間の振り返りを学年ごとに貫通廊下に掲示する。1年間の道徳時間の学びがばらばらに積み重なるのではなく、常に俯瞰的に生徒が見ることで、学んだ道徳的価値同士のつながりや価値の対立を意識することができる。これが半年ごとの振り返りや1年間の振り返りにつながっていく。



【貫通廊下にある「道徳の授業の振り返り」の掲示】

#### (4) 評価の工夫

道徳科の指導では、その学習状況を適切に把握し、評価することが求められる。そのためには、まず、教師が確かな指導観をもち、1時間の授業で期待する生徒の学習を明確にした指導・評価の計画が必要である。そこで、評価に対する内容を全教員が共通理解し、学校として組織的な評価の在り方について、チームで実践、協力しながら進めている。

また、評価は授業によって変わる。評価ばかりに目を向けるのではなく、評価を授業改善に生かしていく、指導と評価の一体化を進めていく。

- ・ 道徳ノートの記事と自己評価

毎時間同じ四つの視点で自己評価をすることで、授業への姿勢や取り組み方を知るだけでなく、個々の変容を見取る。

- |           |  |
|-----------|--|
| <b>視点</b> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分との関わりの中で道徳的価値の理解を深めている。</li> <li>2 多面的・多角的に思考している。新しい発見をしている。</li> <li>3 生き方について考えを深めている。</li> <li>4 意欲的に活動している。</li> </ol> |
|-----------|--|

- ・ 学びの大きかった授業

「印象に残った教材とその理由」を、前期・後期の振り返りシートに記入させる。それぞれの理由から、個々の生徒にとって学びが大きかったか授業を理解する。

- ・ 教師による授業記録

毎時間、授業者以外の教師が、数名の生徒の様子について気付いたことを「授業記録用紙」に記録する。教材名、内容項目、発問に加えて、場面ごとにどのような反応や発言があったかを、四つの視点で記録する。授業後に道徳ノートや板書の写真を見返し、記録を加えることで次時の授業の改善に生かしていく。

- ・ 評価文（通知表）の作成

評価文の作成は、「毎時間の自己評価」と「前期・後期の振り返りシート」を基に、その生徒にとって心に響いた、または生徒が活躍した授業を焦点化すること、道徳ノートからその時間の授業記録を





てベスト3を聞いたところ、全ての教材がランクインした。その要因の一つに、授業の中で、一人一人の生徒が、様々な道徳的価値をしっかりと自分のこととして捉え、多様な考え方に触れる中で、自分の生き方をじっくりと見つめることができているからだと考えられる。

第二回 むまわり 6月12日

1 まだ会いたいかさ、思いついたこと思い出して書いて

2 同じ年くして、私も自分も同じ感じしているから。 ×E

3 今日の授業を通して感じたこと・考えたことを書きましょう。

僕は今日の授業を通して、寛容の大切さ、命の尊厳を感じた。自分、家族の命を大切にしたい。

命や流、他人の命を大切に生きていきたい。

今日の授業を振り返って・・・	総計	改善点	改善点	改善点
1 今日の授業に集中した。(他に読んだ・他の教材)	○			
2 自分ごととして捉えて考えた。	○			
3 自分の考えをもって伝えることができた。	○			
4 授業の考えを持って、自分の考えをしっかりと伝えられた。	○			
5 考えごとをしっかりと伝えたいと感じた。	○			

→

第4回 銀色のワンピース 11月10日

1 15分前まで書いてみた。この時間続けたい。自分のことを書いてみる。早くから罪悪感を感じた。自分のことを書いてみる。早くから罪悪感を感じた。

2 ×E

3 今日の授業を通して感じたこと・考えたことを書きましょう。

人間の弱いところは察知が早い。そして、それだけ思えば、ノゾもついて。本物の真実を伝えよう。それができたら、自分も、それを伝える。それができたら、自分も、それを伝える。

今日の授業を振り返って・・・	総計	改善点	改善点	改善点
1 今日の授業に集中した。(他に読んだ・他の教材)	○			
2 自分ごととして捉えて考えた。	○			
3 自分の考えをもって伝えることができた。	○			
4 授業の考えを持って、自分の考えをしっかりと伝えられた。	○			
5 考えごとをしっかりと伝えたいと感じた。	○			

第4回 電話音 6月26日

1 大切なものがなくなるから、早く気づかない

2 ×E

3 今日の授業を通して感じたこと・考えたことを書きましょう。

現実ではこの話の場面が、いいことばかり。でも、自分が生きていくには、こんなことがあってもいいかなって思っています。

命を大切に、大切に生きていきたい。

今日の授業を振り返って・・・	総計	改善点	改善点	改善点
1 今日の授業に集中した。(他に読んだ・他の教材)	○			
2 自分ごととして捉えて考えた。	○			
3 自分の考えをもって伝えることができた。	○			
4 授業の考えを持って、自分の考えをしっかりと伝えられた。	○			
5 考えごとをしっかりと伝えたいと感じた。	○			

→

第4回 雨の日の思い出 7月3日

1 思い出が、思い出が、思い出が

2 ×E

3 今日の授業を通して感じたこと・考えたことを書きましょう。

時が経てば、思い出が、思い出が、思い出が。思い出が、思い出が、思い出が。思い出が、思い出が、思い出が。

思い出が、思い出が、思い出が。思い出が、思い出が、思い出が。

今日の授業を振り返って・・・	総計	改善点	改善点	改善点
1 今日の授業に集中した。(他に読んだ・他の教材)	○			
2 自分ごととして捉えて考えた。	○			
3 自分の考えをもって伝えることができた。	○			
4 授業の考えを持って、自分の考えをしっかりと伝えられた。	○			
5 考えごとをしっかりと伝えたいと感じた。	○			

→

第9回 がんばれおまえ 8月21日

1 がんばれおまえ、がんばれおまえ

2 ×E

3 今日の授業を通して感じたこと・考えたことを書きましょう。

がんばれおまえ、がんばれおまえ。がんばれおまえ、がんばれおまえ。がんばれおまえ、がんばれおまえ。

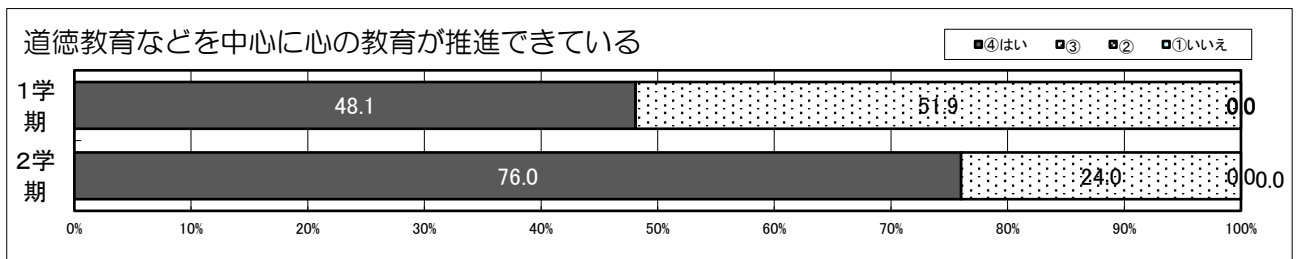
がんばれおまえ、がんばれおまえ。がんばれおまえ、がんばれおまえ。

今日の授業を振り返って・・・	総計	改善点	改善点	改善点
1 今日の授業に集中した。(他に読んだ・他の教材)	○			
2 自分ごととして捉えて考えた。	○			
3 自分の考えをもって伝えることができた。	○			
4 授業の考えを持って、自分の考えをしっかりと伝えられた。	○			
5 考えごとをしっかりと伝えたいと感じた。	○			

【「道徳ノート」の個の記述の変容】

② 教師の意識の変容

「道徳科の授業」が特別なものではなく、「当然行うべきもの」「全員で行うもの」「自然にあるもの」という意識になっている。また、「道徳の授業をすることで自分の教科の授業を見直し、授業力が向上した」と語る教員もおり、道徳科の授業が、道徳教育の要となっているだけでなく、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の一端も担っていることが伺える。



【R2年度 教職員による学期末の評価の変容】

- 道徳の授業が好きな生徒が多く、気持ちを素直に表現でき、人間関係がよくなっているようだ。
- どの学年も計画的に実行できていると感じる。
- 時間がない中でも、工夫して実施できている。学年団で授業検討をしながら取り組むことができた。
- 授業者の熱意が伝わっているので、生徒も真剣に考えていると思う。

## (2) 今後の課題

昨年度の「考え、話し合う」土台の上に、本年度は、「考え、議論する」授業の実現を目指し、研究を行ってきた。今後もさらなる授業力の向上を目指し、実践を重ねるとともに、評価についても、その妥当性・信頼性を高めつつ、授業改善につなげていきたいと考えている。

また、今後はカリキュラム・マネジメントの視点からも研究を重ねていきたい。道徳科で教える道徳的価値は、現実社会の様々な問題にかかわっている。だからこそ、他教科や他領域でも、その教科や領域の特性に応じて道徳教育を行う必要がある。カリキュラム・マネジメント的視点で、他者と共によりよく生きることや、自分がどう生きていくかについて考えを深めることなどに取り組むことが大切だと言える。

今後も研究体制を継続し、目の前の生徒の実態を常に把握しながら、道徳教育を進めていきたい。